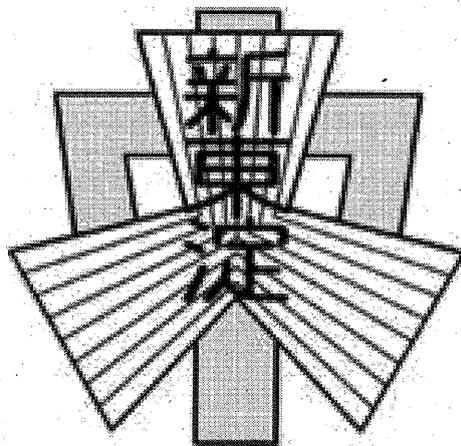


令和7年度

「運営に関する計画」

年度末評価

(修正版)



大阪市立新東淀中学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和4年度末の校内アンケートの「学校のきまり・規則を守っていますか」について、96.3%の生徒が肯定的に回答し、落ち着いた学習環境を維持しているが、不登校生徒の割合は増加し、学校全体で8.2%となった。小学校時から不登校に陥っているケース、理由や要因を明確につかみにくいケースが増加し、生徒、保護者との対話を通じて個々の状況理解に努め、生徒・保護者の思いや要望をくみ取り、生徒の成長につながる対応や取り組みを進めていく必要がある。
- 全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査や校内調査から、携帯電話やスマートフォン等でゲームに費やす時間が非常に長く、自分の考えや思いを言葉で伝える力や異なる考えを受け入れる力が低い傾向が続いている。携帯電話やスマートフォンの長時間使用については、引き続き自身の時間の使い方を見直し、問題点を認識して改善できるよう働きかけを行っていく。自己肯定感は改善しており、道徳や人権学習、キャリア教育を通じて物事を正しく判断する力や他者を理解する心を育み、仲間と協働して取り組む活動を通じてできる喜びや達成感を味わう体験を積み重ね、苦手なことにも粘り強く取り組む態度を育てていく。読書を全くしない生徒は前年度より増加し、全体の5割を超えたことから、全学年で読書活動を位置づけ、読書習慣の定着に取り組んでいく。
- 全国学力・学習状況調査及び中学生チャレンジテストにおいて、全国や府・市と比べて学力低位層の割合が多く高位層の割合が少ない、2年時に大きく学力が下降する、宿題に取り組む時間を含めても家庭での自主学習の時間が極めて少ないことから、ICT機器等を効果的に活用してわかる授業を実践するとともに習熟度別授業や個に応じた指導の充実を図り、自主学習の定着に取り組むことが学校全体の最重要課題である。また、自ら考え、工夫して学習に取り組む意識が乏しく、話し合う活動を通じて考えを広げたり深めたりする力、授業で学んだことを次の学習や日常生活で活用する力が低いことから、課題を解決する力を養い、主体的に学習に取り組む態度を育てることも重要である。
- 体力・運動能力、運動習慣等については学年ごとに結果に違いがあるが、令和4年度の体力合計点(T得点)は男子51.4、女子51.3で、ともに全国平均を1ポイント以上上回っている。運動習慣では5割以上の生徒が運動やスポーツをすることが好きと回答し、男子がやや全国平均を下回ったが、これまで課題であった女子が大きく改善している。長引くコロナ禍で運動する時間やいろいろなスポーツを体験する機会が大幅に減少し、今後、心身の成長や筋力、体力にマイナスの影響が表れてくると想定されることから、体育の授業や体育的行事、運動部の活動において取組内容を工夫し、活動時間を確保するとともに自ら運動を続ける習慣を身に付けさせる取り組みを工夫したい。
- 家庭、地域との連携について、学校が校区外にあることやコロナ禍により、地域の活動への参加や地域の人々と触れ合う機会が少なくなり、生徒が地域の一員であることを実感する機会が減少したが、今年度より感染対応が変更され、地域の行事や活動が再開する見通しである。積極的に家庭・地域との連携を深め、地域に貢献できる生徒の育成を図りたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を87%以上にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の目標

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を86%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を98%以上にする。
- 本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらい SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3 時間以上と回答する生徒の割合を 25% 以下にする。
- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。
- 年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を79%以上にする。
- 年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を72%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を37%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **1ポイント** 向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **2ポイント** 向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を58%以上にする。
- 年度末の校内力調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を56%以上にする。

学校の目標

- 年度末の校内調査における「授業の内容はよくわかりますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を **88%** 以上にする。
- 年度末の校内調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を62%以上にする。

- 中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も毎年1ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も毎年2ポイント減少させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1.00ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の生徒の割合を男子8%以下、女子13%以下にする。
- 年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を(寝る90・おきる95)%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の52%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を61%以上にする。
- ゆとりの日を週1回以上設定する。

学校の目標

- 年度末の校内調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する生徒の割合を18%以下にする。
- 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を79%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を87%以上にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の目標

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を84%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を98%以上にする。
- 本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか」に対して、3時間以上と回答する生徒の割合を25%以下にする。

- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。
- 年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を79%以上にする。
- 年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を74%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を37%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を55%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を54%以上にする。

学校の目標

- 年度末の校内調査における「授業の内容はよくわかりますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%以上にする。
- 年度末の校内調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を62%以上にする。
- 年度末の校内調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する生徒の割合を18%以下にする。
- 中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の学力に課題が見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.01ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の生徒の割合を男子8%、女子13%以下にする。
- 年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を(就90、起床95)%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の52%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)
- デジタル教材や協働学習支援ツール、アンケートや相談機能等、学習者用端末の活用を推進し、週1回以上、授業での活用を目指す。
- 勤務時間について、「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、教員の勤務時間の上限の基準2を満たす割合を61%以上にする。
- ゆとりの日を週1回設定する。

学校の目標

○年度末の校内調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する生徒の割合を18%以下にする。

○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を72%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】について

生徒は概ね規則正しい生活習慣が身につけており、学校の決まりを守って行動し、落ち着いた学習環境を維持することができている。特に、2学期末の学校生活アンケートから、「学校に行くのは楽しい」と回答する生徒の割合が昨年度に比べ2.5ポイント増加した。来年度は各学年の人権担当教員を拡充し、3年間を見据えた人権学習を中心に心の育成を推進する。

学校・学年行事では生徒の主体性を尊重し、各学年を通じて仲間と助け合って物事を解決する力を育てる取り組みを行っている。学級を中心に据え、自己肯定感や自己有用感を高めることで、97.1%の生徒が「人の役に立つ人間になりたい」と考えている。今後も、予測困難な時代を生きる生徒が、物事を多面的にとらえ将来に希望を持って生きぬく力を育む教育活動を行っていく。

とりわけ不登校生徒の在籍比率は、昨年度に比べ1ポイント減少した。今年度は、担任だけではなく、SSWやSCなど常駐する学校外の専門家との連携のもと、家庭訪問や電話連絡を継続して行い、不登校の改善に取り組んだ。来年度以降も、自主学習室等の別室登校や、放課後デイサービス等の学校外施設との連携を推進する。特に、防災や安全教育の一環として、地区ごとに全生徒を避難させる訓練や実体験を通じて、各取り組みを担う教職員集団の育成を図り、チーム学校として生徒の健全育成を継続する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

学力の向上をめざして、総合的読解力育成カリキュラムを中心に、基礎・基本の定着とともに授業や学校・学年行事を有機的につなぎ、主体的で対話的で深い学びに取り組んできた。大阪府チャレンジテスト(3年生)では、昨年度に比べて、正答率7割未満の生徒が国語以外の4教科で減少し、正答率12割以上の生徒が数学以外の4教科で増加した。結果、2学期末の学校生活アンケートで82.1%の生徒が「授業の内容がよくわかる」ことへの肯定的回答を示している。また「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」との問いに対して、「1時間より少ない」と回答する生徒の割合が、昨年度に比べて5ポイント以上減少した。今後も教科ごとに課題を明確にして個別最適な学びにつなげることや、国語・数学・英語での習熟度別授業のあり方を検討し、授業毎に協働的な学びに継続して取り組む。

体力・運動能力については、昨年と比べて本年度は数値が増加し、全国並みの結果を示す種目もあり、大多数の生徒は体を動かすことや、健康を維持しながら成長を実感している。

【学びを支える教育環境の充実】について

学習者用端末は、授業での利用や家庭学習時の課題の配信、欠席者へのオンライン配信、心の天気の入力や各種アンケートなど、日常的な活用が定着した。特に、働き方改革については、ワークライフバランスを意識する教職員が増えたものの、年度当初からの「50周年事業」を中心に長時間勤務が増加した。一方でこの事業を通じて、学校・地域・PTA等の連携が大きく進んだことも事実である。今後も働き方改革を推進しながら、地域に貢献できる中学生を育てる責任と役割を見据え、本校の教育活動についてHP等広く情報発信に努めながら、地域に開かれた教育活動を推進する。

大阪市立新東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 R7 後期: 77.8% R7 前期: 77.7% R6 後期: 78.0%</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 R7 後期: 8.7% (54名) R7 前期: 6.5% (40名) R6 後期: 9.7% (62名)</p> <p>○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 R7 後期: 8.7% (54名) +1.0% R6 後期: 9.7% (62名) +0.5%</p> <p>学校の目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を79%以上にする。 R7 後期: 79.9% R7 前期: 79.9% R6 後期: 76.5% R6 前期: 78.0% R5: 77.8%</p> <p>○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を98%以上にする。 R7 後期: 97.1% R7 前期: 95.0% R6 後期: 95.6% R6 前期: 95.9% R5: 95.1%</p> <p>○本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか」に対して、3時間以上と回答する生徒の割合を40%以下にする。 R7 後期: 40.2% R7 前期: 41.6% R6 後期: 42.6% R6 前期: 41.3% R5: 42.1%</p> <p>○年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。 R7 後期: 97.1% R7 前期: 94.2% R6 後期: 95.3% R6 前期: 95.7% R5: 94.9%</p> <p>○年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を76%以上にする。 R7 後期: 77.8% R7 前期: 73.6% R6 後期: 74.1% R6 前期: 73.2% R5: 76.0%</p> <p>○年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 R7 後期: 68.8% R7 前期: 68.4% R6 後期: 68.2% R6 前期: 68.3% R5: 71.1%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【①安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>※誰にとっても居場所となる安心できる学級をベースに、毎日の「心の天気」、毎月の「いじめアンケート」を実施する。</p> <p>[いじめ・不登校・問題行動・児童虐待への対応] (生活指導部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活を送るうえで普遍的な規範の一つである「時間を守る」「言葉づかいをていねいにする」の2項目の指導を徹底する。繰り返し指導が続く生徒には、本人の背景や状況を把握し、組織的・継続的に対応することで状況の改善を図る。 ・不登校の生徒に対して、担任が家庭訪問を行う他、校内の対策委員会で対応を検討し、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の積極的活用を図る。単に「登校させる」ことだけを問題解決の目標にするのではなく、将来の社会的自立に向けた視点で、柔軟で弾力のある関わりと状況に応じた多様な支援に努める。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 <p>R7 後期：77.8% R7 前期：77.7% R6 後期：78.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 <p>R7 後期：8.7% (54名) R7 前期：6.5% (40名) R6 後期：9.7% (62名)</p>	
<p>取組内容①【①安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>[防災・減災教育の推進] (防災担当)</p> <p>消防署と連携した避難訓練、区役所や社会福祉協議会、地域と連携した避難所づくりや救命講習などの防災研修、各学年の状況を踏まえた防災学習等を通して、自ら危険を回避するための自立した行動をとれるよう指導していくとともに、支援者として周りの人たちと協働して安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートの「災害や防災について他人事ではなく自分にも起こりうる事として考え、適切に行動することができる」について、肯定的に回答する生徒の割合を94%以上にする。 <p>R7 後期：92.0% R6 後期：92.6% R5：93.4%</p>	
<p>取組内容①【①安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>[安全教育の推進] (生徒指導主事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府警本部、東淀川警察署と連携し、「非行防止防犯教室」や「交通安全教室」を開催し、ラインやSNSによるトラブル・インターネット上のいじめや、夜間外出での犯罪被害の防止に向けた取り組みを推進し、学校生活を含め生活全般において子どもの規範意識の醸成を図る。 ・交通ルールや危険について理解を深め、安全な歩行やマナー、自転車の利用を指導する。 ・薬物乱用防止教育講師による「薬物乱用防止教室」を開催し、生徒たちが薬物乱用の実態や心身への影響、依存症、疾病との関連や社会への影響などについて考え、正しく理解する機会を設ける。 ・今年度は、「SNSを介した犯罪防止のための弁護士出張授業」を依頼し、生徒たちが闇バイトや特殊詐欺などの詐欺被害にあわないような学びを推進していく。 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートの「学校にはルールを守ろうとする雰囲気がある」について、肯定的に回答する生徒の割合を77%以上にする。 <p>R7 後期：73.7% R7 前期：72.6% R6 後期：74.8% R5：77.3%</p>	
<p>取組内容②【②豊かな心の育成】</p> <p>[道徳教育の推進] (道徳教育推進担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別教科 道徳」の年間の授業を通して生徒一人ひとりが生命の尊厳や他者への思いやりの心などの道徳的諸価値の大切さを理解し、自己を見つめ、人間としての生き方について自分の考えを深められるような取り組みを行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケートを行い、授業の現状と生徒の理解度を把握し、今後の教育活動の推進に活かす。 ・校内アンケートの「道徳・総合的な学習の時間の中で自分の考えを深めることができる」について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。 <p>R7 後期：92.4% R7 前期：89.1% R6 後期：86.6% R5：88.5%</p>	B
<p>取組内容②【②豊かな心の育成】</p> <p>[キャリア教育の充実] (進路指導主事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通して進路に関わる体験活動、進路情報・資料を活用した学級活動や進路相談等、生徒が将来に夢や希望をもてるようなキャリア教育を実施し、生徒の自己肯定感、自己有用感の向上を目指す。 ・職業体験学習を通じて、望ましい勤労観・職業観を育む。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 <p>R7 後期：68.8% R7 前期：68.4% R6 後期：68.2% R5：71.1%</p>	
<p>取組内容②【②豊かな心の育成】</p> <p>[人権を尊重する教育の推進] (人権教育主担)</p> <p>人権意識向上のために、SDGsの学習と平和学習の2本の軸を中心に学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じた学習計画を再構築するために、人権教育委員会を中心として各学年の取り組み内容をまとめる。 ・自己の大切さと共に他者の大切さを認める人権感覚を身に付けさせるために、学活や授業でいじめが起きない指導法を考えると共に、行事などで学習を深める。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートの「学校では、命を大切にし、人権を尊重する態度を育てるための学ぶ機会が多くある」について、肯定的に答える生徒の割合を92%以上にする。 <p>R7 後期：91.2% R7 前期：89.1% R6 後期：91.3% R5：91.5%</p>	
<p>取組内容②【②豊かな心の育成】</p> <p>[インクルーシブ教育の推進] (特別支援教育コーディネーター)</p> <p>変わりゆく特別支援教育を理解し、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行うインクルーシブ教育の基本的な環境を構築し、支援体制を整える。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育にかかわる生徒一人一人の教育的ニーズに対して、専門家による指導助言を年2回以上受け、適切な指導及び支援を行う。 	
<p>取組内容②【②豊かな心の育成】</p>	

[多文化共生教育の推進] (国際理解教育主担)

・国際化が一層進展する社会において、異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生しようとする態度を育む。

B

指標

・特活、総合的な学習の時間に、SDGsに関連した学習を年1回以上実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【①安全・安心な教育環境の実現】

[いじめ・不登校・問題行動・児童虐待への対応]

校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する生徒の割合を80%以上にする。という目標に対してR7後期：77.8%(1年79.7%、2年77.8%、3年76.5%)であった。「だいたいあてはまる」という生徒も入れれば96.9%を超えてくるが、自信をもっていじめはいけいと言えない生徒が19.1%いることを考えれば、まだまだいじめ問題の指導が行き届いていないことがわかる。年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。R6：9.7%(62名)という目標に対して、R7後期：8.7%(54名)と1.0%減少させることができた。『自主学习ルーム』の活用や、SSWやSCと先生、保護者、不登校生徒の連携が密に取れたことが改善につながったと思う。

[防災・減災教育の推進]

1学期に地震と津波を想定した避難訓練並びに集団下校班に分かれて下校ルートを確認した。天候不良で下校班に分かれて確認に留まったが、今後も実施していく。また各学年で区役所と消防、地域の防災リーダーとの連携した防災学習(1年生 土曜授業)や防災教育をそれぞれ実施している。7月の校内アンケートの「災害や防災について他人事ではなく自分にも起こりうる事として考え、適切に行動することができる」について、肯定的に回答する生徒の割合を91%であった。また同項目で年度末には94%をめざしていたが、92%であった。

[安全教育の推進]

今年度は、4月の早い時期から警察署や大阪弁護士会などの外部機関と連携し、1学期に色々な講習会を実施することができた。話を聞いた後は生徒たちの理解が深まった様子も見られたが、定着しているとは言い難い様子である。外部機関と連携するだけでなく、校内での指導を継続させていくことが大切であると考え。校内アンケートの「学校にはルールを守ろうとする雰囲気がある」について、肯定的に回答する生徒の割合は7月のアンケートでは72.6%であり目標の77%には及ばなかった。

取組内容②【②豊かな心の育成】

[道徳教育の推進]

いじめいのちについて考える日では、いじめを防ぐ環境づくりについてグループワークをしたり、動画を見たりして考える活動を行った。事後アンケートでは3学年で約80%の生徒が「内容について理解できた」と回答した一方、残りの生徒は「なんともいえない」と回答している。

[キャリア教育の充実]

3年生には1、2学期に各1回体育館で進路学習を行った他、学年集会や学習者用端末のクラスルームを通じて必要な情報をその都度周知した。2年生の職場体験は、事前・事後指導も含めて生徒が仕事に対して具体的なイメージや目標をもてるような取り組みとなった。校内アンケートの「将来の夢や希望を持っていますか」という項目では、肯定的に回答する生徒の割合が、目標とする70%には達しなかった。

[人権を尊重する教育の推進]

1学期に、校内全体でいじめ命について考える授業と学年ごとに平和教育を行った。「学校では、命を大切に、人権を尊重する態度を育てるための学ぶ機会が多くある」について、肯定的に答える生徒の割合(全学年)は90%であったため、学年末に92%以上にしたい。

[インクルーシブ教育の推進]

特別支援教育にかかわる生徒一人一人の教育的ニーズに的確に対応することを重要な課題としている。前期には専門家による指導助言を2回受け、生徒の実態の捉え方や授業場面での支援方法、学習環境の整え方について、今後の支援に役立つ視点を教えていただいた。今年度は、指導主事や言語聴覚士のご指導・助言のもと、より適切な指導及び支援を行うための基本的な環境整備に努めている。

[多文化共生教育の推進]

さまざまな国の言葉で書かれた絵本を中央図書館から借りてきて、図書室に多文化共生コーナーを作った。その他にもいろいろな国の国旗や挨拶を知ることができる掲示をしており、国際理解の一助になるよう工夫している。

次年度への改善点

取組内容①【①安全・安心な教育環境の実現】

[いじめ・不登校・問題行動・児童虐待への対応]

外部から講師を呼ぶなど、教師からのアプローチだけではなく違う角度からのアプローチも加えることによって、いじめに対する生徒や教職員の意識を強めていきたい。

『自主学习ルーム』の環境を更に整え、教室にこだわらず不登校生徒が学校に登校できる環境を整備し、どの生徒に対しても安心・安全な学校作りを目指していきたい。

[防災・減災教育の推進]

次年度でも火災による1学期に避難訓練を実施し、2学期に地震と津波による避難訓練と集団下校を行い、1年生は防災学習を行っていく予定である。集団下校を導入して3年目であるが、教職員による班員の人数点呼も円滑に行うことができるようになってきた。有事に備えて連携を図ってよりよい訓練となるように進めていく。

[安全教育の推進]

1学期に外部機関との連携を深め講習会などを行った。その後年間を通して校内での指導を継続させた結果、R7前期のアンケート結果より後期の方が「学校にはルールを守ろうとする雰囲気がある」の項目に関して数値は良くなった。ただ、目標の77%には及ばなかった。来年度以降目標を達成するため、外部機関との連携をより深め、校内での指導を教職員全体で共有しながら今年度以上に継続していかなければならない。

取組内容②【②豊かな心の育成】

[道徳教育の推進]

アンケートの結果から数値的な目標は達成したものの(91.2%)、教職員に向けた研修などの機会が無かった。来年度以降、授業や指導を通して引き続き生徒の道徳心をはぐくむと共に教職員向けの研修の充実を目指して取り組んでいく。また、「いじめ・命について考える日」の取り組みに関しても、人権担当と連携しながらより生徒の実態に基づいた学習内容になるように検討していく。

【キャリア教育の充実】

「将来の夢や目標を持っていますか」について、1,3年生は目標の70%以上に達したが、2年生は62.2%と目標に達しなかった。また、2,3年生は7月調査よりも12月調査の方が数値が上昇していたが、1年生は4%ほど下降していた。1年生については、小中のギャップにより自己肯定感を失いがちな時期の働きかけを行いたい。来年度は、キャリア・パスポートを効果的に活用できるよう年間計画を工夫し、中学卒業後や将来の自分の姿を意識させることができるよう取り組んでいく

【人権を尊重する教育の推進】

校内アンケートの「学校では、命を大切にし、人権を尊重する態度を育てるための学ぶ機会が多くある」について、肯定的に答える生徒の割合は、91.2%であり目標としていた92%にわずかに届かなかった。次年度に向けて、人権教育の充実をはかるため各学年で取り組む内容や取り組み事例を作ったり、人権教育委員会のメンバーを増やして各学年の実情に合わせた取り組みを行っていきたい。

【インクルーシブ教育の推進】

次年度は、これまでの専門家による指導助言や実践の成果を校内で共有し、組織的・継続的な支援体制の充実を図る。特に、実態把握及び支援方法について共通理解を図り、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の充実と授業への確実な反映に努めるとともに、関係諸機関及び保護者との連携を強化し、切れ目のない支援体制の構築を図る。また、計画的な研修を通して教職員の専門性向上を図り、合理的配慮及びユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を推進する。

【多文化共生教育の推進】

1年生で計画されていた外国人教育は先方の都合で予約が取れずキャンセルになってしまったが、2年生では平和学習を行った。また、図書室では定期的に韓国語・中国語・ネパール語、英語などの外国語の絵本コーナーを作っている。さらに今年度は大阪子ども民族交流会やオリニウンドンフェの本校生徒の参加も増えている。次年度は講師に来てもらい、外国人教育を実施していくことを目標にする。

大阪市立新東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成 状況																																		
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を37%以上にする。</p> <p>R7 前期: 36.6% R6 後期: 29.1% R6 前期: 33.9% R5: 33.0%</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">国 語</th> <th colspan="3">数 学</th> </tr> <tr> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>0.91</td> <td>0.89</td> <td>0.95</td> <td>1.00</td> <td>0.85</td> <td>0.82</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>0.93</td> <td>0.94</td> <td>0.88</td> <td>0.92</td> <td>0.91</td> <td>0.86</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>0.92</td> <td>0.95</td> <td>0.94</td> <td>0.92</td> <td>0.90</td> <td>0.93</td> </tr> </tbody> </table> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を58%以上にする。</p> <p>R7: 学校 58.9% 市 60.3% R6: 学校 55.0% 市 57.5% R5: 学校 42.3% 市 54.3%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を48%以上にする。</p> <p>R7 後期: 56.9% R7 前期: 53.9% R6 後期: 46.0% R6 前期: 49.0% R5: 50.1%</p> <p>学校の目標</p> <p>○年度末の校内調査における「授業の内容はよくわかりますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。</p> <p>R7 後期: 83.4% R7 前期: 78.5% R6 後期: 79.7% R6 前期: 79.5% R5: 85.8%</p> <p>○年度末の校内調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を49%以上にする。</p> <p>R7 後期: 53.8% R7 前期: 46.5% R6 後期: 47.3% R6 前期: 46.5% R5: 48.1%</p> <p>○年度末の校内調査における「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾・家庭教師含む)」について、「1時間より少ない」と回答する生徒の割合を45%以下にする。</p> <p>R7 後期: 42.5% R7 前期: 58.9% R6 後期: 47.0% R6 前期: 51.4% R5: 50.1%</p> <p>○総合的な読解力の土台となる言語能力の育成を図るため、全校的に「総合的読解力育成カリキュラム」を実践し、年間を通じて35時間取り組む。</p> <p>※総合的読解力の4観点(情報を読み取る、考えを形成する、考えを交流する、考えを表現する)に該当する活動を導入する。</p> <p>R7 後期 90% R7 前期: 100.0% R6 後期: 50.0% R6 前期: 50.0% R5: 50.0%</p>			国 語			数 学			R5	R6	R7	R5	R6	R7	1年	0.91	0.89	0.95	1.00	0.85	0.82	2年	0.93	0.94	0.88	0.92	0.91	0.86	3年	0.92	0.95	0.94	0.92	0.90	0.93	B
	国 語			数 学																																
	R5	R6	R7	R5	R6	R7																														
1年	0.91	0.89	0.95	1.00	0.85	0.82																														
2年	0.93	0.94	0.88	0.92	0.91	0.86																														
3年	0.92	0.95	0.94	0.92	0.90	0.93																														

○中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、1年(社理は対市比)は前年度より 0.95 ポイント以上、2 年は前年度より 0.97 ポイント以上、3 年は前年度より 1.00 ポイント以上とする。

		国語	社会	数学	理科	英語
1 年	R7	0.95	0.93	0.82	1.00	0.98
	R6	0.89	0.82	0.85	0.89	0.91
	R5	0.91	—	1.00	—	0.95
2 年	R7	0.88	0.82	0.86	0.82	0.92
	R6	0.94	0.98	0.91	0.97	0.97
	R5	0.93	0.89	0.92	0.91	0.92
3 年	R7	0.94	0.94	0.93	1.00	0.98
	R6	0.95	0.87	0.90	0.89	0.97
	R5	0.92	0.88	0.92	0.91	0.92

○中学生チャレンジテストにおける平均正答率 7 割未満の割合を、いずれの学年も前年度より減少させる。

		国語	社会	数学	理科	英語
1 年	R7	26.0%	—	39.0%	—	20.3%
	R6	33.9%	—	39.6%	—	33.5%
	R5	29.0%	—	29.5%	—	31.4%
2 年	R7	35.6%	42.2%	41.5%	45.0%	36.2%
	R6	25.3%	31.8%	33.3%	36.9%	32.7%
	R5	25.5%	29.7%	36.4%	36.6%	37.6%
3 年	R7	24.8%	24.8%	29.0%	31.9%	33.6%
	R6	24.8%	34.7%	41.9%	35.8%	41.4%
	R5	24.9%	37.7%	33.5%	36.6%	43.9%

○中学生チャレンジテストにおける平均正答率 12 割以上の割合を、いずれの学年も前年度より増加させる。

		国語	社会	数学	理科	英語
1 年	R7	30.5%	—	15.8%	—	27.7%
	R6	23.3%	—	27.5%	—	23.1%
	R5	20.3%	—	41.1%	—	29.0%
2 年	R7	19.2%	15.0%	27.3%	17.2%	28.8%
	R6	27.3%	28.8%	28.3%	37.4%	34.2%
	R5	22.4%	15.4%	29.2%	24.7%	28.9%
3 年	R7	25.7%	21.0%	24.3%	34.3%	35.5%
	R6	31.2%	14.4%	30.0%	27.9%	34.5%
	R5	19.2%	20.8%	25.9%	25.8%	29.0%

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.01 ポイント以上向上させる。

R7: 男子 1.06 女子 1.04 R6: 男子 0.95 女子 1.02 R5: 男子 0.99 女子 1.05

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が 60 分未満の生徒の割合を男子 8%、女子 13%以下にする。

R7: 男子 5.2% 女子 16.9% R6: 男子 8.9% 女子 3.1% R5: 男子 11.6% 女子 18.7%

○年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を(寝 75、起 91) %以上にする。

	R7	R6	R5
毎日、朝食を食べている。	89.3	88.8	88.7%
毎日、同じくらいの時間に寝ている。	77.6	72.5	77.5%
毎日、同じくらいの時間に起きている。	92.8	88.8	92.6%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[国語] (国語科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指し、週1回の漢字テストや文法・語句などの小テストを行う。 ・思考力・判断力・表現力の育成を目指し、以下の取り組みをする。 <p>① 詩や俳句・短歌などの創作活動をし、互いに鑑賞しあう場を設ける。</p> <p>② 記述への苦手意識を減らすため、感想文や意見文を単元ごとに書かせ添削を行う。</p> <p>③ 学習用端末を用いた授業の振り返りや課題の提出など ICT を活用した授業づくりをさらに工夫し、学力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、1年は0.95ポイント以上、2年は0.97ポイント以上、3年は1.00ポイント以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける平均正答率7割未満の割合を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 	B
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[社会] (社会科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を多角的な視点から、主体的に思考する力や豊かな表現力を身につけさせる。 ・ICT機器を使用した授業展開を行うことや、文章記述問題について苦手意識を持つ生徒を減らし、単元ごとに理解を深めることができる教材を精選し活用する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、1年(対市比)は0.95ポイント以上、2年は0.97ポイント以上、3年は1.00ポイント以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける平均正答率7割未満の割合を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント以上減少させる。 	B
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[数学] (数学科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的な取り組みを進めるために T-T や習熟度別授業を積極的に活用し取り組んでいく。 ・デジタル教材や Web ライブラリーなどを活用し、基礎的な力の定着を図るとともにそれらの効果を確認するため自ら振り返ることができるように、単元ごとに小 	B

<p>テストを行い、自己分析をさせていく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、1年は0.95ポイント以上、2年は0.97ポイント以上、3年は1.00ポイント以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける平均正答率7割未満の割合を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減らす。 	
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[理科] (理科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月4回、小テストや確認問題を実施することで基礎学力の定着を図る。 ・実験や実習等の体験的な学びを毎学期3回以上行い、理科の学習に対する興味・関心を高める。実験レポートの作成時やデータ等の資料を読み取る実習などでは、話し合い思考力や表現力の向上を図る。また、行った実験が生活にどのように活かされているか気づかせるための発問を考えて授業を行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、1年(対市比)は0.95ポイント以上、2年は0.97ポイント以上、3年は1.00ポイント以上にする。 ・中学生チャレンジテストにおける平均正答率7割未満の割合を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減らす。 	
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[音楽] (音楽科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の内容や基礎知識に関する学習をワークやプリントを用いて繰り返して行い、楽曲への理解を深める。 ・様々な音楽を鑑賞することで、自らの表現力向上を目指すと共に音楽への興味・関心をひきたて、音楽を愛好する心や豊かな感性を育む。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年実技テストを学期に1回必ず行い、実技の得点平均を85%以上とする。 ・アンケートを行い「学習内容が理解できた」について、肯定的に回答する割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[美術] (美術科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、造形的な見方・考え方を働かせる学習を取り入れる。 ・表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面と立体の両方に取り組み、構成やデッサン力、構成力など基礎的な技術を評価し、その到達度の平均を65%以上にする。 ・実技技能だけでなく、座学やテストを通じて、知識に関する能力を高める。 	
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[技術・家庭科] (技術・家庭科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図り、生きる力を身につけさせていく。そのために、社会の変化に対応しながら、より実践的・ 	B

<p>体験的な学習活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科内での評価や研修内容などを共有し指導に生かす。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復基礎練習、作業確認を多く実施できるよう、ICTなどを活用するとともに実習計画を立て、90%以上の作品完成を目標とする。 ・アンケートを行い「学習内容が理解できた」について、肯定的に回答する割合を83%以上にする。 	
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>[英語] (英語科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語を使う「楽しさ」を少しでも感じる授業づくりを構築しながら、「読む」「書く」「聞く」「話すこと」の4技能の育成に努める。また、生徒主体となり教え合いやペアワークを実施することで、「考える力」や「対話する力」を養う。 ・ICT機器などを積極的に活用し、C-NETとの連携を図りながら生徒が実践的に英語に触れる機会を多く設ける。 ・生徒の習熟度別に応じて指導を行う機会を設け、T.Tによる授業を充実させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生チャレンジテストにおける平均点の対府平均を、プラス2ポイント以上にする。 ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を55%以上にする。 ・生徒アンケートにおける「習熟度別授業によって英語が以前より分かるようになった」について、肯定的に回答する割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容①【⑤健やかなからだの育成】</p> <p>[体力・運動能力向上のための取り組みの推進] (保健体育科主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な運動を習慣づけるために、体育の授業を通して、運動することで感じる楽しさや達成感、充実感を味わえるよう、目標を明確化する。そのために单元ごとにルーブリックを提示し、課題に挑戦しやすい授業を行う。その経験を通して運動習慣を身に付け、体力向上につなげる。 ・保健体育の授業で单元ごとにICT機器を使用する機会を増やす。ICT機器を使用した課題テストを実施し、知識の定着に努める。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての单元でルーブリックを作成し、事前に生徒に提示し、評価の明確化を図り、関心意欲が高まり、体育の授業が楽しいと答える生徒を85%以上にする。 ・各单元でのICT機器を活用した課題テストを年5回以上実施し、運動・健康に対する知識を高める。 	
<p>取組内容①【⑤健やかなからだの育成】</p> <p>[健康教育・食育の推進] (保健主事・食育担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの普及に伴い、夜遅くまでゲームやSNSを利用する生徒が増加し、その結果、睡眠時間が短くなるだけでなく、起床が遅くなり朝食を抜く生徒も増える傾向にある。この課題に対して、今年度も保健委員による健康喚起を週2回以上実施して現状を把握し、改善に向けて働きかけを行う。 ・月1回のほけんだよりの発行や保健委員会活動を活発化させることにより、健康への意識、関心を高める。 	B

指標

- ・月1回、ほけんだよりを発行する。
- ・週2回以上、健康喚起を行い、年間を通して継続して実施する。
- ・年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間におきていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を(寝75、起91)%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】

〔国語〕

基礎学力定着のため計画通り漢字テストや文法テストなどを定期的に行っている。また、ICT危機を利用した授業や、短歌や俳句などの創作活動を行い、鑑賞会を行った。また、作文や記述問題の添削を積極的に行い、無回答率を減らすよう努めている。しかし中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比は0.94ポイントであり、目標である1.00ポイントには届かなかった。記述問題の正答率は府平均から-0.1ポイントでありあまり差がなかったが、読解や知識の問題でも平均値を下回る結果となったので、読解力を向上させるよう演習をこなしていく。

〔社会〕

ICT機器を利用した授業や共同学習を通して資料を読み取る力をつけることで、思考力・判断力・表現力を養う授業展開を行っている。しかし、3年生のR7年度中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比は0.98であり、目標(1.00以上)に届かなかった。地歴ともに地図上から選ぶ問題に強いことや地理的分野の空欄記述の正答率が高いこと、また、歴史的分野の正誤の組み合わせ正答率が低いことに加えて空欄記述の正答率が低いことから考えて、地理的分野が得意な生徒が多く歴史的分野の苦手な生徒が多いことが読み取れる。資料の読み取りに関しては正答率が高いことから、授業での積み重ねが生きていると考えられる。

〔数学〕

基礎学力定着のため、TTや習熟度別授業に取り組んでいる。また、定期的に単元テストや週末課題を実施している。ナビマの活用により、到達度の自己分析ができるよう取り組ませている。

〔理科〕

中学生チャレンジテストにおける平均正答率7割未満の割合を同一母集団で比較したとき、3年においては前年度より0.8ポイント減少させることができた。

各学年において小テストや確認問題を定期的に行い、また実験や実習等の体験的な学びを毎学期3回以上行うことができた。実験や実習では、レポートの作成やデータ等の資料の読み取りに取り組ませ、思考力や表現力の向上を図る機会を設けられた。その結果、3年中学生チャレンジテストにおいて、12割以上の得点率の生徒が3.2ポイント上昇させることができた。

〔音楽〕

・各学年、実技テストは1・2学期に歌唱テスト、3学期にアルト笛テストを行い(1・2年は実施中)、得点平均が歌唱テストについては85.4%・アルト笛テストでは3年生92.6%が

となりおおむね目標を達成している。

〈3 学年平均 1 学期(歌) 85.0 点 2 学期(歌) 85.8 点 3 学期(笛) 92.6 点(3 年)〉

・ 1 月に実施したアンケートでは「学習内容が理解できた」という項目で、肯定的に回答する割合が 89.9%という結果になり、目標の 80%以上を大幅に達成することができた。

〔美術〕

文化発表会の作品作りなど、作品の提出率は一定数をクリアできている。しかし今年度クラスによって作品の進み具合や完成度に差が見られる。知識・技能に関しては単元の初めに座学を行うなどして、生徒が見通しを立てて作品作りができるように進めている。

〔技術・家庭科〕

作品の作り方などを動画にし生徒が繰り返し確認できるよう ICT を使用した授業を実践することができている。実習については現在実施しているところである。また、アンケートが未実施のため、最終反省にて報告する。

〔英語〕

学年ごとに目標や指針が異なっているが、相対的にカリキュラム通りに進んでおり、計画通りに進んでいる。1 年に関しては英語に興味を持ち、楽しく基礎学力をアップさせられるような指導計画を日々行ってきた。1 学期よりも書く・読むなどの力は向上してきている。チャレンジテストにおける府比差がプラスになるよう取り組みを継続していく。

2 年については文化発表会や職場体験など行事が多い 2 学期ではあったが、C-Net との連携を計りつつ、使える英語、会話に必要なイディオムやフレーズの定着をめざして進んできた。昨年と比べ、4 技能の英語力が向上していることを日々の授業で実感している。

3 年は、帯学習でディクテーション、読みトレに取り組ませている。基礎文法の定着はもちろん、難解な長文読解にも対応できる力の育成に継続的に取り組んでいく。

取組内容① 【⑤健やかなからだの育成】

〔体力・運動能力向上のための取り組みの推進〕

授業の初めに、ランニングと補強運動を全学年毎時間行っている。補強運動の内容は、腕立て伏せと腹筋、背筋運動。運動する上で必要な筋力や基礎体力を向上させることで、運動能力向上を目指す。ICT は毎単元のテストで使用しており、各学年 9 回の ICT によるテストを実行できた。

〔健康教育・食育の推進〕

・ ほけんだよりは月に一度保健室より発行された。また食育活動や、生徒への健康喚起についても、全体的に週 2 回以上行うことができた。生徒の健康保持への意識は高まったと考えられる。

・ 年度末の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は、全校生徒で 89.3%であり、目標には若干届かなかったが昨年度よりも上昇した。また「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合は「寝る」が 77.6%で、「起きる」が 92.8%で目標を達成することができた。

次年度への改善点

取組内容① 【④誰一人取り残さない学力の向上】

〔国語〕

目標には届かなかったものの、チャレンジテストの指標となる数値が僅かながら上昇傾向

にある。しかし文章を読解する力が弱く、府平均に近づけることができていない現状がある。また、得点分布グラフを見ると、20点～45点までの得点層と55点～80点台の得点層で二極化している傾向がある。平均点を上げるためにはまず中間層の底上げが必須である。今後も小テストなどの実施を継続的に行い、学習習慣の確立を目指す。

【社会】

中学生チャレンジテストにおける平均点の対府比において、3年は0.98ポイントであり目標としていた1.00ポイントに届かなかった。1・2年生の結果はまだ返ってきていない。公民分野では社会的事象を多角的な視点から、主体的に思考する力や豊かな表現力を身につけさせるような授業を行った。また、小テストを学習者用端末で行ったり、全分野でICT機器を使用した調べ学習や発表課題、共同学習を入れた授業展開を行うなど、知識注入型にならないような授業を行うよう努力した。来年度以降は、さらに思考力・判断力を身につけられるような教材選びや授業づくりを行っていききたい。

【数学】

数値的にはやや上昇している。引き続き、単元テストや週末課題を継続していく。ただ、正規分布には程遠く格差が広がっており、興味関心を持つ授業内容や基礎学力の定着を図る取り組みを考えていく。

【理科】

チャレンジテストの指標となる数値が改善傾向にある。その結果を受けて、今後も継続して小テストや実験・実習など、知識の定着や科学的な思考力を養う取り組みを進めていく。

【音楽】

・50周年行事の全体合唱を4月から取り組み、例年1年生は合唱を行わないが合唱に触れる良い機会となった各学年普段と違う経験ができたためそれを来年のクラス合唱にも生かせるようにしていきたい。

・授業については50周年行事の取り組みがあったため例年とは違う形ではあるが歌唱や器楽合奏を行うことができた。しかし歌唱については音量などまだまだ改善できる点はあるため日々の授業の中で少しずつ改善していきたい。授業では今後も実技を中心に行いながら、鑑賞や創作でICT活用のより良い活用法を研究していきたい。

【美術】

作品の提出率や授業アンケートの数値などから目標はおおむね達成できた。(授業アンケート1, 2の項目において肯定的な割合が80%前後)

また、生徒ごとの進捗状況の差に関してはワークシートの説明の強化や、単元内容の見直しなどを行った結果改善が見られた。しかしながら、単元ごとのテストの実施などは作業時間の確保の関係で行えなかった単元もあったため、生徒の実態に合わせた単元内容の変更も視野に入れてより良い単元づくりに取り組んでいきたい。

【技術・家庭科】

アンケートを肯定的に回答する割合が多かったため来年度もICTを利用した授業づくりを行っていききたい。

また、作品完成度が90%を下回る学年があったため不登校生徒に対する補習等支援をしていきたい。

【英語】

学年ごとに目標や指針が異なっているが、概ね計画通りに進めることができた。3年生は英検やG-TECの結果からCEFR-A1以上の取得者が約80%というところからも、英語に関する知識や技能、思考などは伸びた結果となった。1・2年生に関しては、授業アンケートの数値から、「授業が理解できる」という肯定的な割合が80%以上で、目標達成できたとい

える。しかしながら基礎的な文法力や語彙力に関する知識が乏しい生徒が一定数おり、繰り返しのプラクティスや単語テスト、暗唱テスト等の実施を多く設けることで改善を図っていきたい。今後も3学年通して「話すこと」を中心に英語を楽しく学べる環境づくりを行い、生徒間やC-NETとの会話の中で、より実践的な学力を身につける指導に取り組んでいく。また理解の乏しい生徒への丹念な指導を入れながら、全体的な学力向上に努める。

取組内容①【⑤健やかなからだの育成】

[体力・運動能力向上のための取り組みの推進]

全国運動能力調査の結果から柔軟性、跳躍力、持久力が課題であるとわかったため、日ごろの授業でストレッチを行っていく。長距離走の授業でも走る楽しさを伝えていき、授業以外でも走る習慣を身につけさせていきたい。

[健康教育・食育の推進]

今後もより一層、日々の食事や基本的な生活習慣の大切さについて伝えていく必要性を感じた。来年度の食育学習などでバランスの良い食事について改めて考え、健康保持の増進へつなげていきたい。

大阪市立新東淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を57%以上にする。 R7 後期: 53.4% R7 前期: 54.5% R6 後期: 54.9% R6 前期: 55.7% R5: 55.5%</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を61%以上にする。 R7 1月: 58.7% R7 10月: 95.7% R6 1月: 67.3% 10月: 80.4% R5 1月: 58.1%</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) R7 75.6%</p> <p>学校の目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する生徒の割合を45%以下にする。 R7 後期: 57.8% R7 前期: 50.1% R6 後期: 47.0% R6 前期: 55.0% R5: 51.4%</p> <p>○ゆとりの日を週1回設定し、月1回以上行事予定にゆとりの日を明示する。 R7 後期: 100% R7 前期: 100% R6 後期: 100% R6 前期: 100%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【⑥教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 [ICTを活用した教育の推進] (ICT教育主担)</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書や学習支援ツールを効果的に活用し、個別最適な学びを推進するように努める。 心の天気の入力を徹底して行い、スクールライフノートの相談機能等を活用し、生徒の心の状態を可視化し、子どもの理解を深める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを効果的に使っている生徒の割合、ICTを使った学習は効果的であると感じている生徒の割合を90%以上目指す。 R7 後期: 88.3% R6 後期: 87.9% R5 後期: 88.3% アセス(学校適応感尺度調査)の2回以上/年を実施する。 R7 後期: 2月実施 R7 前期: 7月実施 	

<p>取組内容①【⑥教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 [データ等に基づく施策の推進(教育ビッグデータの活用等)] (ICT教育担当) ・心の天気やいじめアンケート等のデータを活用し、一人一人の生徒の心や生活の状況を丁寧に見ていく。</p>	
<p>指標 ※学校適応感尺度調査(アセス)を2回以上/年 に実施する。 ・ICTを用いたアンケート(学校生活アンケート・いじめアンケート等)の集計や活用、分析ができる教員の割合42%を目指す。 44%(18人)</p>	B
<p>取組内容①【⑦人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 [働き方改革の推進] (管理職) ・教職員一人ひとりが心身の健康を維持し、ワークライフバランスを意識し持つる力を発揮して教育活動に取り組むために、「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、働きやすい職場環境を整備するとともに校務の効率化を図り、長時間勤務の改善をめざす。</p>	
<p>指標 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を61%以上にする。 R7 1月:58.7% R7 10月:95.7% R6 1月:67.3% R6 10月:80.4% R5 1月:58.14% ・行事予定にゆとりの日を月1回以上設定する。 R7 後期:100% R7 前期:100% R6 後期:100% R6 前期:100%</p>	B
<p>取組内容①【⑧生涯学習の支援】 [学校図書館の活性化] (図書担当) ・生徒の読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境整備に努める。</p>	
<p>指標 ・学校司書の協力を得ながら、月ごとに特集を組んで配架の工夫をするとともに、広報活動に努める。 ・週平均8回以上の開館を目指し、生徒の読書に親しむ機会を確保する。</p>	B
<p>取組内容①【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 [教育コミュニティづくり・地域学校協働活動の推進] (管理職) ※ミマホルメや学校HPを活用した地域への情報公開を推進する。 ・学校元気アップと連携した土曜英検・漢検学習会、PTAと連携した学校行事や参観授業、進路説明会等を通じて、地域・保護者と協働した教育活動に取り組み、広く情報発信・情報公開を行う。また、校区小学校との小中連携、学期ごとの学校協議会において、意見や要望を集約して本校の教育に反映し、広く地域に開かれた学校教育を推進する。</p>	
<p>指標 ・学校の現状を保護者や地域に伝える機会を学期に1回以上開催する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【⑥教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

〔ICTを活用した教育の推進〕

ICTを効果的に使えている生徒の割合、ICTを使った学習は効果的であると感じている生徒の割合90%を目指しており、7月のアンケートで効果的であると答えた生徒は90.2%(1年92.3%、2年90.2%、3年88.3%)で、昨年と比べ向上が見られる。また各授業やデジタルドリル・総合的読解力での取り組みでの使用もあり学習面でのICTの活用が進んできたと考えられる。

〔データ等に基づく施策の推進(教育ビッグデータの活用等)〕

心の天気の入力はICT委員会において、いじめアンケートの結果は生活指導部を中心にまとめ、どちらも担任に伝達するとともに教職員全体で状況を共有している。

取組内容①【⑦人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

〔働き方改革の推進〕

教職員の長時間勤務について令和7年10月以降、11月1日実施の「50周年記念式典」に係る取り組みが影響したこともあり、基準2の割合が増加したが、令和8年1月時はやや改善している。

取組内容①【⑧生涯学習の支援】

〔学校図書館の活性化〕

学校司書と協力し、月ごとに特集を組んでいる。また、夏休みに新庄小学校のいきいき教室で絵本の読み聞かせ会を行った。「小学生の反応がとても良くて、自分も楽しめた。」「ボランティアに参加するのは初めてだったけれど喜んでもらえてとても嬉しかったので、ぜひまた参加したい。」という感想があった。

取組内容①【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】

〔教育コミュニティづくり・地域学校協働活動の推進〕

「50周年記念事業」を中心にして、校区小学校や地域の町会関係者等様々な方と交流し、地域と学校との連携が図られた。今後もこの経験を来年度に引き継ぎながら、地域に開かれた学校教育を推進する。加えて定例開催の町会長会議や敬老大会、学期毎の学校協議会等で学校の取組や状況を伝えながら、相互に連携を図っていく。

次年度への改善点

取組内容①【⑥教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

[ICTを活用した教育の推進]

デジタルドリル研修やICT研修などの場を設け、教師のスキル向上を目指す。

また、生徒からもアンケートなどで意見を集めほかにもどのようなことができるのかなど生徒の視点も取り入れていきたい。

[データ等に基づく施策の推進(教育ビッグデータの活用等)]

心の天気の入力の呼びかけを学校全体でしていき、いじめ不登校対策委員会との連携を深めたい。また欠席状況だけでなく、生徒の心の状態を把握して効果的な改善に役立てたい。

取組内容①【⑦人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

[働き方改革の推進]

デジタル化やペーパーレス化が進展し、昨年度に比べ職場滞在時間が短縮している月もあるものの、生徒・保護者との個別対応は内容が多様化し、業務の負担軽減にはつながらない現状も散見される。課題解決支援員の継続配置により、不登校家庭との連携は大きく進んだことから、今後も業務の分業化を一層進めていく。

取組内容①【⑧生涯学習の支援】

[学校図書館の活性化]

次年度も週8回以上の開館をしていく。来館者数は上昇傾向にあるが、学年別で見ると現2年生の図書館利用が非常に少ない。図書館がもっと親しみやすい空間になるよう、習熟度別授業などで図書館を利用し、身近に本があるという環境づくりをしていきたい。また、図書館のボランティアやFOR YOU BOOKなどのイベントを継続して来館者数の上昇を目指していく。

取組内容①【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】

[教育コミュニティづくり・地域学校協働活動の推進]

「50周年事業」を通じて、地域やPTAの協力を得ながら進めていくことができた。今後も働き方改革を進展しながら、地域に貢献できる中学生を育てる責任と役割を見据える。加えて本校教育活動についてHP等広く情報発信に努めながら、地域・保護者とのよりよい連携、協力を推進する。